

多種多様なボルトが製造されている工場にて。大藤さん(左)と伊藤さん(右)。

これまでの経験を活かせるのが嬉しいです。

妻子とともに

故郷に戻り、

スキルアップを実現。

滋賀県 ▼ 時津町 (Uターン)

新  
ナガサキ  
移住のカタチ  
自分らしい生き方

大藤祥太さん

*Life in Nagasaki*

移住歴1年

**高** 校卒業後、滋賀県の製造メーカーで働いていた大藤祥太さんが、生まれ故郷の時津町へ戻ってきたのは1年前。「以前からいつかは地元に戻ろうと思っていました。妻も長崎県出身で、子どもが生まれたこともあって、故郷へ帰る決心をしました」と大藤さん。今は両親の近くで、安心して子育てができていますという。地元に戻るにあたって、一番不安だったのは、やはり仕事。大藤さんは、ネットで「ながさき移住サポートセンター」の存在を知り、大阪で行われた相談会に参加することから始めた。「スタッフの方に、今までのスキルを活かせるような会社で働きたいと希望を伝え、六社ほど紹介していただきました」。その中で、出会ったのが今の会社

# 会社員

## ハマックス株式会社

だった。「とにかく会長、社長、副社長の会社に対する情熱がすごくて(笑)」。それが決め手になりましたね」と大藤さん。大藤さんが就職したハマックス株式会社は、ボルトの製造・販売を行う会社。作っているボルトの大きさや用途はさまざまで、工場には数メートルに及ぶ大きなものも並んでいる。大藤さんはクライアントと協議して仕様を定め、材料を仕入れ、現場と調整しながら製品を納期までに納める「製造管理」の仕事を担当している。「前職とは比べものにならないくらい責任のある仕事を任されているので、正直プレッシャーはあります。でも、その分やりがいもありますね。それに製造の現場を経験していたからこそ、クライアント

トとの協議や現場への指示ができるのだと思います」。大藤さんの指導を担当している伊藤進さんは、自身も横浜から九年前にやってきた移住の大先輩。他県からの採用について、伊藤さんは「ボルトは船や車、高速道路など、あらゆるものに使われていますが、安全基準などは業界によって異なります。ですから、いろんな業界を経験してきた人が、新しい風を入れてくれるのは、会社にとって良いこと。大藤さんは、仕事に積極的な姿勢で取り組んでくれていて、期待しています」と話す。「若いうちに移住を決断して本当に良かったです」。大藤さんはスキルを活かしながら、故郷で働くことに喜びを感じていた。

